

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400039		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター鶴が沢 (1階)		
所在地	名古屋市長区鶴が沢二丁目316		
自己評価作成日	平成27年 1月21日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2391400039-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の美化清掃、お月見どろぼうに参加させて頂き、ご近所の方々と交流を深めています。ニチイ祭りのご案内をさせて頂き、お近くの方が3名ゆっくりされていられました。初めて中を見させてもらいましたとのこと、目標としている地域に根ざしたグループホームにまた近づいています。推進会議にも出来るだけご参加を頂き、楽しんでいかれるように、講習会やイベントを織り交ぜ工夫をし、気楽に來られる雰囲気作りが出来てきています。またスタッフはご利用者様の体調管理、ちょっとした変化の気付きが出来るよう日々研鑽を積み前向きに頑張っています。建物は日の当る好立地の場所、畑も有り申し分のないところです。皆で芋ほりをしたり、野菜の収穫をしたり、楽しく過ごせます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今期は管理者の交代があり、新たな体制でホーム運営が行われている。受け継がれているホーム理念「愛」を中心に、職員は利用者本位の支援に取り組んでいる。利用者から「このスタッフはいい人だ」との声を聞き、利用者の穏やかな表情や様子、職員の明るい仕事ぶりから、利用者との良い関係を感じる。また、管理者は、利用者の暮らしが更に向上するように強い意欲を持って臨んでいる。利用者に対する介護の質の向上を図るために職員研修を多く取り入れ、職員の意識向上を求めている。地域の人がホームの土手のよもぎを摘みに来たり、地域美化活動でホームの草むしりを手伝う等、新興住宅地ながら地域交流がある。管理者はホームの畑を「地域のふれあい場所」として地域と交流をはかることを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念である「愛」をそのまま引継ぎ、愛があるから暖かい気持ちで人と接する事ができる。困難も助け合い乗り切ることが出来る。管理者となり十ヶ月経とうとしていますが、その理念は共有できてきています。	従前の事業所理念「愛」を職員の目に留まる場所に掲示し、常に利用者本位の支援であるよう職員同士で話し合っている。またミーティングや職員研修の中でも話し合い理念を追求している。	事業所理念を支援に活かせるよう、理念に基づいた具体的な目標を話し合うことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りにはお神輿を担いだ近所の子供達にご利用者のために練習してきた歌を上手に披露していただき、またお月見泥棒では元気よく「お月見泥棒です」と言ってお菓子を貰いに来てくれました。	近所の散歩で挨拶を交すなど顔の見える関係作りに努めている。恒例のニチイ祭りは近隣へポスティングを行った。多くの近隣住民が参加し、エコクラフトや魚釣り等利用者と一緒に楽しむ風景が見られた。	利用者が地域の一員として活動できる場所や人とのつながりが、更に広がることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ニチイ祭りで介護相談の窓口を設け相談に乗ったり、毎月第3月曜日は見学会と決めフェンスに見学会開催中。介護相談もお気軽にどうぞと掲示しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回の推進会議では入居状況、行事の報告、認知症についての講習会、ご家族間の情報交換、意見や要望などが話し合われます。実際のサービスに反映させて頂きました。	運営推進会議は年6回開催し、民生委員、地域包括支援センター、家族等が参加している。ホームの報告のほかに参加者の意見交換や参加者に好評の勉強会等が行われている。	地域の理解や協働するために、地域の参加が望まれる。多種多様な参加者で運営される会議となり更なるサービス向上に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議ではいきいき支援の方が必ずご出席くださり、情報提供をいただいています。連絡協議会の福祉フェアにもスタッフが、認知症のブースに参加させて頂きました。	地域包括支援センターが運営推進会議に毎回参加しており協力体制ができている。区の事業者連絡協議会の福祉フェアに職員が参加する等地域貢献の一役を担っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフに身体拘束についての勉強会を行い、どのようなことが身体拘束にあてはまるかも理解し、このホームでは身体拘束はしないを基に愛ある介護を実践している。	身体拘束について勉強会を行い、弊害を理解している。玄関の施錠はないが、ユニットの出入りに安全のため施錠がある。安全とリスクについて常に話し合い、利用者の言動を抑制しない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフに高齢者虐待防止法についての勉強会を行い、どのような行為が虐待にあたるか学び、虐待は絶対にあってはならないことなので、一人ひとりが注意を払い、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を利用されておられるご利用者様がおられますので、どのような場合にこの制度を利用するか、理解がしやすい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を全て読み上げながら個人情報、医療連携、退去、解約のことまで細かくご説明をさせて頂き、ご理解納得をさせていただいていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議ではお茶とお菓子で気楽に話し合えるよう考慮し、意見や要望を出していただき、話し合っております。事務所のほうにも何か有りましたらいつでもお声掛けをしてくださいとお伝えして有ります。	運営推進会議に参加する家族から積極的に質問や意見が出ており、サービス向上につながっている。面会時には気軽に相談等ができるような雰囲気作りに努めている。	家族がホームに訪れる回数にかかわらず、家族への情報発信の工夫について話し合うことに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のホーム会議、月二回のカンファレンスを開催し、意見や提案を聞く機会を設けています何かあれば個人的に聞く事が出来る体制をとっています。	ホーム会議や研修会等、職員が意見を述べる機会が多い。また、申し送りノートに自由記載している。管理者は職員から収集した意見をホーム運営に反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会を開き、資格取得に向け努力する事によりやりがいと自信が持てるようになってもらう。キャリアアップ制度を活用して、時給をアップさせ給与に反映させる。努力に対しては評価をする。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ニチイ学館では管理者や職員のスキルアップのために採用時研修、6ヶ月のわかば研修、介護技術研修、実践者研修、管理者研修など様々な研修の機会を用意しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名介研の多くの研修への参加の奨励、連絡協議会の研修、その他にも様々な研修への参加をしネットワーク作り、知識の向上とサービスの向上を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	急に今までと違う環境での生活に不安と戸惑いは確実にあると考えます。本人の言葉に耳を傾けここでの生活に馴染めるようになるまでは注意深く見守ります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている事、不安に思っていることをきちんと対応し、答える事により、信頼関係も生まれ不安も無くなっていくのではないかと考えます。誠意をもって、迅速な対応をします。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援を必要としておられるか、時間を掛けて話し合い、他のサービスを提案したり、確認したりしながらその方には何が必要かを見極めご紹介もします。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、生活しておられるので、他の方のご家族様のこととか、速くお茶を出してあげるとか、スタッフよりもよく観察されておられる事も有り、洗濯物たみも一緒にしていると名前を探しているところこのパジャマは誰のだよと教えてくださる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様がお見えになられた時はお茶をお出ししてゆっくりしていただいているので、すよと言う雰囲気作りをして、ご本人との時間を持っていただく。衣替えなどは、筆筒を確認して入れ替えていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方の面会も歓迎です。お手紙のやり取りをされていたり、電話を取り次ぎ会話をされておられます。近くの喫茶店に行くと知った人が来ているかもしれないとお茶を飲みに行かれる方も見えます。	友人との囲碁や孫の来所等、継続的な交流を支援している。農業を営んでいた利用者には収穫の楽しさを味わえるよう共に畑作りしている。習慣の継続も含め、利用者本人が大切なことを尊重し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	嚙下のしにくいご利用者様の介助をしていると、「こっくん、こっくん」と声かけをしてくださったり、ボール投げでは、この方は普通に投げてもいい、この方はそっと投げようと、気遣いながら家族の様な関係が出来てきています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者であったご主人が亡くなられた奥様のご様子を訪問してみたり、お友達と草が生えていないか、気になったと草刈りに来てくださったりの方も見えますが、お断りで退去された方には連絡が取り難いところも有ります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中で思いであったり、したいことであったりをおっしゃられる事があるので、必ず記録として残し、何を望んでおられるかを皆で共有し、介護計画に反映させます。	日常生活の中で利用者が話しやすい環境を作り、思いや意向を言葉や表情等からくみ取るようにしている。把握した情報は、申し送り時や記録に記し、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントの媒体にセンター方式を用いてこれまでの生活歴をご本人やご家族からお聞きします。これまでの担当ケアマネからも情報提供をお願いし、介護計画に反映させます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常生活支援シートを作成し、スタッフが把握、共有している。また、状態の変化に応じてモニタリング、書き直しをしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のカンファレンス会議において、ご利用者一人ひとりの問題点、課題、改善策、支援方法について話し合います。ご家族や提携医に相談、報告があれば速やかに伝え、意見やアイデアを取り入れます。	日常支援ノート、介護計画を6ヶ月ごとに見直している。定期的に見直しだけでなく利用者の状態変化等を見逃さず臨機応変に対応している。月1回モニタリング、カンファレンスをし、計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って個別に記録をしています。言葉、表情、動きなど細かく、記録をするように指導をしています。申し送りにて情報の共有、カンファ会議にての援助方法の話し合いを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調、希望、好きな事などを重視して、個別の対応をしています。面会、外出、家族との外食、など希望に応じて対応しています。定期的な病院受診もしてくださっているご家族もお見えです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々においでいただき、歌、民謡、踊りを楽しんでいただきます。また近くの喫茶店にも時々、コーヒーを飲みに行ったり、アピタが近いのでお買い物に出かけたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医と皮膚科医、調剤薬局は提携を結び、24時間の対応が出来ます。内科医は木曜、日曜以外は往診が有ります。皮膚科医は症状をFaxすれば、すぐに駆け付けてくださいます。薬局は薬のセットをさせていただきます。	利用者全員が提携医をかかりつけ医としている。専門医の受診は基本的に家族対応としているが、緊急時は柔軟に対応している。家族対応時、情報提供等、正確で迅速な受診となるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師3名が交代で来てくださり、情報の共有が上手くできる仕組みができております。看護師は健康チェックをして、内科医と連携を取りながら適切な対応をさせていただきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急入院の場合など提携がどちらの病院か判断をくださり、こちらからは入院先にサマリーを提携医からは診療情報が行きます。また退院時には入院先からサマリーと注意する事などの情報がホームと提携医に届くようになっており、連携が出来ております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについての説明をしておりますが、重度化した場合でないと考えられない事も有ります。ご家族の考えを聞きながら、病院、提携医と共にホームで出来る事を説明しながら対応をしていきます。	提携医の24時間連絡体制のもと、訪問看護と連携し終末期の介護体制がある。また、職員へ終末期の介護について研修をし、本人や家族の意向に添った支援を行なえるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿って対応が出来るよう会議や申し送りにて説明をしています。今までに経験をした事を例にあげ、どのように行動するか、勉強会を開催しています。実践力は身に付いてきています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を実施しています。緑消防署に方の指導の元、夜間を想定した火災訓練を致しました。住宅地なので大きな声で助けを呼ぶなどの指導も受けました。	年2回消防署立会いのもと、通報訓練や消火訓練等実践的な訓練をしている。また、缶詰や米、水の備蓄をしている。地域との協力体制は難しい状況である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室を開けるときには必ずノックをし、声をかけ入室をします。声掛けをし、ご利用者様の意思を確かめながら介助をさせて頂いています。	丁寧な声掛け、トイレの戸を閉める、入浴時にタオルを掛ける等、利用者を尊重し、一人ひとりに合わせた支援を行なっている。また職員は利用者のいる場所で人が特定できる話をしないよう工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが話しかけやすい環境を作らないとご利用者様は表現できないと考えます。利用者様を観察し受け身で話を聞けるように配慮をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の時間都合での対応があり、その方のペースでは対応が出来ていないかと思えます。外出したいと申し出があれば努力対応をします。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日洗濯をした物を着て頂いています。気に入った洋服を選び来て頂いています。2ヶ月に1度出張美容を利用し、カット、毛染めをされる方もお見えます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理のできる方は準備と一緒にされます。食器拭きはご利用者様は進んでくださいます。好みの食材も使って美味しく、楽しんで召し上がっていただけるように工夫しております。	下ごしらえ、下膳、食器を拭く等利用者の力量に合わせた役割の支援がある。好みを大切にしながら一人ひとりに合わせた調理を実践している。元気な利用者が他の利用者の食事介助をする姿も見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を食札表と秤を使って提供しています。食べやすい食事形態を考えながら召し上がっていただいています。水分量も確保できるように摂取量をその都度記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前は必ず口腔ケアをしています。出来るところはご自分でされ出来ない部分はお手伝いをさせて頂いております。定期的に訪問歯科診療も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、ご自分で行かれない方は記録につけ時間で声掛けをし、できるだけ失敗の無いようにトイレ誘導をしております。それに伴いオムツの使用量も減っています。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を活用している。さりげない言葉掛けや誘導、見守り支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の中に繊維の物を出来るだけ摂取するようにしております。牛乳屋、ヨーグルトの摂取もしております。出たかどうかの記録もし、出ない日が続いて場合は提携いと相談をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は体調や拒否があったり、一人ひとりの希望に沿ってしたいのですが難しく、職員がタイミングを計ってお誘いするし入っていただく事があります。	2日に1回の入浴を基本としている。入浴を拒否する利用者には無理強いせず言葉の掛け方をかえる等工夫をしたり、柔軟に対応して清潔保持に努めている。菖蒲湯等季節を感じる工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中起きておられて夜はよく眠れている方と、日中うとうとされておられる方がお見えます。その方に合った休息方法でお休みをしていただいておりますが、基本的には日中起きていただき、夜は寝て頂くようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが分かる様に介護記録に飲んでいるお薬説明書をファイルしきちんと目を通し用法、容量が分かる様にしてあります。服薬時間や管理を間違えないように工夫しセットをする仕組みを作っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を知りその人の楽しみを生活の中で見出せるように援助をしています。以前出来ていたことが出来なくなっている事が多いので、昔話をして振り返ったりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に一度タクシーで順番にお買い物に出かけています。近くの喫茶店や歩いてアピタまでお買い物に行かれます。ご家族も協力的に外出してくださっています。	高齢化により外出が難しくなっているが、ウッドデッキで外気浴や畑の世話、近所の散歩等、外気に触れる機会を作っている。遠出の外出は、家族の協力のもと「あいち健康の森」「デンパーク」を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を少額入れてお持ちの方もお見えになりますが、失くすといけないのでホーム管理となっており、お預かりしている事を伝えてあります。買いたい物がある時にはそちらから出してスタッフの見守りでお買い物をします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友だちからの電話は取次ぎをします。手紙は読める方にはお渡しします。返事が書きたい時には手紙を出せるように支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感を感じる絵や作品を皆で作って展示したり、レクリエーション、イベントの写真を展示したりしております。音、光、温度はスタッフが気づかひをしています。加湿器も2台置いております。	玄関にはスタッフの写真と信条が掲示されている。また、リビングの壁面に利用者が作った絵や作品、写真を飾り、居心地の良い温かい雰囲気演出している。掃き掃除を利用者と共に行い、快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の景色が見えるところに椅子を置いてたり、お天気の日にはウッドデッキでコーヒーを飲むように工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にどのような生活環境であったかを聞き、できるだけそれに近い環境であるようにベッドで寝ておられた方、畳で寝ておられた方、使い慣れた筆筒、机を置かれる方、ご家族と相談しながら居心地いい環境を作っています。	利用者の今までの生活習慣を大切に、畳を敷いたりベッドを置いたり各自過ごしやすい居室としている。花が好きな利用者の居室に家族から贈られた花が筆筒の上で置かれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりカレンダーをめぐっていただき、日にちが確認できるようにし、お名前を明記して歯磨きをしていただいたり、洗濯物をたたんで一緒にしまいにいったりします。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400039		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター鶴が沢 (2階)		
所在地	名古屋市緑区鶴が沢二丁目316		
自己評価作成日	平成27年 1月21日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JkyosyoCd=2391400039-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の美化清掃、お月見どろぼうに参加させて頂き、ご近所の方々と交流を深めています。ニチイ祭りのご案内をさせて頂き、お近くの方が3名ゆっくりされていられました。初めて中を見させてもらいましたとのこと、目標としている地域に根ざしたグループホームにまた近づいています。推進会議にも出来るだけご参加を頂き、楽しんでいられるように、講習会やイベントを織り交ぜ工夫をし、気楽に来られる雰囲気作りが出来てきています。またスタッフはご利用者様の体調管理、ちょっとした変化の気付きが出来るよう日々研鑽を積み前向きに頑張っています。建物は日の当る好立地の場所、畑も有り申し分のないところです。皆で芋ほりをしたり、野菜の収穫をしたり、楽しく過ごせます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念である「愛」をそのまま引き継ぎ、愛があるから暖かい気持ちで人と接することができる。困難も助け合い乗り切ることが出来る。管理者となり十ヶ月経とうとしていますが、その理念は共有できてきています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りにはお神輿を担いだ近所の子供達にご利用者様のために練習してきた歌を上手に披露してくださり、またお月見泥棒では元氣よく「お月見泥棒です」と言ってお菓子を貰いに来てくれました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ニチイ祭りで介護相談の窓口を設け相談に乗ったり、毎月第3月曜日は見学会と決めフェンスに見学会開催中。介護相談もお気軽にどうぞと掲示しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回の推進会議では入居状況、行事の報告、認知症についての講習会、ご家族間の情報交換、意見や要望などが話し合われます。実際のサービスに反映させて頂きます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議ではいきいき支援の方が必ずご出席くださり、情報提供をいただいています。連絡協議会の福祉フェアにもスタッフが、認知症のブースに参加させて頂きました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフに身体拘束についての勉強会を行い、どのようなことが身体拘束にあてはまるかも理解し、このホームでは身体拘束はしないを基に愛ある介護を実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフに高齢者虐待防止法についての勉強会を行い、どのような行為が虐待にあたるか学び、虐待は絶対にあってはならないことなので、一人ひとりが注意を払い、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を利用されておられるご利用者様がおられますので、どのような場合にこの制度を利用するか、理解がしやすい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を全て読み上げながら個人情報、医療連携、退去、解約のことまで細かくご説明をさせて頂き、ご理解納得をしていただけていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議ではお茶とお菓子で気楽に話し合えるよう考慮し、意見や要望を出していただき、話し合っております。事務所のほうにも何か有りましたらいつでもお声掛けをしてくださいとお伝えして有ります。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のホーム会議、月二回のカンファレンスを開催し、意見や提案を聞く機会を設けています何かあれば個人的に聞く事が出来る体制をとっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会を開き、資格取得に向け努力する事によりやりがいと自信が持てるようになってもらう。キャリアアップ制度を活用して、時給をアップさせ給与に反映させる。努力に対しては評価をする。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ニチイ学館では管理者や職員のスキルアップのために採用時研修、6ヶ月のわかば研修、介護技術研修、実践者研修、管理者研修など様々な研修の機会を用意しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名介研の多くの研修への参加の奨励、連絡協議会の研修、その他にも様々な研修への参加をしネットワーク作り、知識の向上とサービスの向上を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	急に今までと違う環境での生活に不安と戸惑いは確実にあると考えます。本人の言葉に耳を傾けここでの生活に馴染めるようになるまでは注意深く見守ります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている事、不安に思っていることをきちんと対応し、答える事により、信頼関係も生まれ不安も無くなっていくのではないかと考えます。誠意をもって、迅速な対応をします。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援を必要としておられるか、時間を掛けて話し合い、他のサービスを提案したり、確認したりしながらその方には何が必要かを見極めご紹介もします。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、生活しておられるので、他の方のご家族様のこととか、速くお茶を出してあげるとか、スタッフよりもよく観察されておられる事も有り、洗濯物たたみも一緒にしていると名前を探しているところのバジャマは誰のだよと教えてくださる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様がお見えになられた時はお茶をお出ししてゆっくりしていただいているのですよと言う雰囲気作りをして、ご本人との時間を持っていただく。衣替えなどは、筆筒を確認して入れ替えていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方の面会も歓迎です。お手紙のやり取りをされていたり、電話を取り次ぎ会話をされておられます。近くの喫茶店に行くと知った人が来ているかもしれないとお茶を飲みに行かれる方も見えます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	嚙下のしにくいご利用者様の介助をしていると、「こっくん、こっくん」と声かけをしてくださったり、ボール投げでは、この方は普通に投げてもいい、この方はそっと投げようと、気遣いながら家族の様な関係が出来てきています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者であったご主人が亡くなられた奥様のご様子を訪問してみたり、お友達と草が生えていないか、気になったと草刈りに来てくださったりの方も見えますが、お断りで退去された方には連絡が取り難いところも有ります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中で思いであったり、したいことであったりをおっしゃられる事があるので、必ず記録として残し、何を望んでおられるかを皆で共有し、介護計画に反映させます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントの媒体にセンター方式を用いてこれまでの生活歴をご本人やご家族からお聞きします。これまでの担当ケアマネからも情報提供をお願いし、介護計画に反映させます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常生活支援シートを作成し、スタッフが把握、共有している。また、状態の変化に応じてモニタリング、書き直しをしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のカンファレンス会議において、ご利用者一人ひとりの問題点、課題、改善策、支援方法について話し合います。ご家族や提携医に相談、報告があれば速やかに伝え、意見やアイデアを取り入れます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って個別に記録をしています。言葉、表情、動きなど細かく、記録をするように指導をしています。申し送りにて情報の共有、カンファ会議にての援助方法の話し合いを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調、希望、好きな事などを重視して、個別の対応をしています。面会、外出、家族との外食、など希望に応じて対応をしています。定期的な病院受診もして下さっているご家族もお見えです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々においていただき、歌、民謡、踊りを楽しんでいただきます。また近くの喫茶店にも時々、コーヒーを飲みに行ったり、アピタが近いのでお買い物に出かけたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医と皮膚科医、調剤薬局は提携を結び、24時間の対応が出来ます。内科医は木曜、日曜以外は往診が有ります。皮膚科医は症状をFaxすれば、すぐに駆け付けてくださいます。薬局は薬のセットをしてくださいます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師3名が交代で来てくださり、情報の共有が上手くできる仕組みができております。看護師は健康チェックをして、内科医と連携を取りながら適切な対応をしてくださいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急入院の場合など提携がどちらの病院か判断をしてくださり、こちらからは入院先にサマリーを提携医からは診療情報が行きます。また退院時には入院先からサマリーと注意する事などの情報がホームと提携医に届くようになっており、連携が出来ております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについての説明をしておりますが、重度化した場合でないと考えられない事も有ります。ご家族の考えを聞きながら、病院、提携医と共にホームで出来る事を説明しながら対応をしていきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿って対応が出来るよう会議や申し送りにて説明をしています。今までに経験をした事を例にあげ、どのように行動するか、勉強会を開催しています。実践力は身についてきています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を実施しています。緑消防署に方の指導の元、夜間を想定した火災訓練を致しました。住宅地なので大きな声で助けを呼ぶなどの指導も受けました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室を開けるときには必ずノックをし、声をかけ入室をします。声掛けをし、ご利用者様の意思を確かめながら介助をさせて頂いています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが話しかけやすい環境を作らないとご利用者様は表現できないと考えます。利用者様を観察し受け身で話を聞けるように配慮をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の時間都合での対応があり、その方のペースでは対応が出来ていないかと思いません。外出したいと申し出があれば努力対応をします。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日洗濯をした物を着て頂いています。気に入った洋服を選び来て頂いています。2ヶ月に1度出張美容を利用し、カット、毛染めをされる方もお見えます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理のできる方は準備と一緒にされます。食器拭きはご利用者様は進んでしてください。好みの食材も使って美味しく、楽しんで召し上がっていただけるように工夫をしております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を食札表と秤を使って提供しています。食べやすい食事形態を考えながら召し上がっていただいています。水分量も確保できるように摂取量をその都度記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前は必ず口腔ケアをしています。出来るところはご自分でされ出来ない部分はお手伝いをさせて頂いております。定期的に訪問歯科診療も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、ご自分で行かれない方は記録につけ時間で声掛けをし、できるだけ失敗の無いようにトイレ誘導をしております。それに伴いオムツの使用量も減っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の中に繊維の物を出来るだけ摂取するようにしております。牛乳屋、ヨーグルトの摂取もしております。出たかどうかの記録もし、出ない日が続いて場合は提携いと相談をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は体調や拒否があったり、一人ひとりの希望に沿ってしたいのですが難しく、職員がタイミングを計ってお誘いするし入っていただく事があります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中起きておられて夜はよく眠れている方と、日中うとうとされておられる方がお見えます。その方に合った休息方法でお休みをしていただいておりますが、基本的には日中起きていていただき、夜は寝て頂くようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが分かる様に介護記録に飲んでいるお薬説明書をファイルしきちんと目を通し用法、容量が分かる様にしております。服薬時間や管理を間違えないように工夫しセットをする仕組みを作っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を知りその人の楽しみを生活の中で見出せるように援助をしていきます。以前出来ていたことが出来なくなっている事が多いので、昔話をして振り返ったりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に一度タクシーで順番にお買い物に出かけています。近くの喫茶店や歩いてアピタまでお買い物に行かれます。ご家族も協力的に外出してくださっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を少額入れてお持ちの方もお見えになりますが、失くすといけないのでホーム管理となっており、お預かりしている事を伝えてあります。買いたい物がある時にはそちらから出してスタッフの見守りでお買い物します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友だちからの電話は取次ぎをします。手紙は読める方にはお渡しします。返事が書きたい時には手紙を出せるように支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感を感じる絵や作品を皆で作成展示したり、レクリエーション、イベントの写真を展示したりしております。音、光、温度はスタッフが気づかいをしています。加湿器も2台置いております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の景色が見えるところに椅子を置いてたり、お天気の日にはウッドデッキでコーヒーを飲むように工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にどのような生活環境であったかを聞き、できるだけそれに近い環境であるようにベッドで寝ておられた方、畳で寝ておられた方、使い慣れた筆筒、机を置かれる方、ご家族と相談しながら居心地いい環境を作っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりカレンダーをめぐっていただき、日にちが確認できるようにし、お名前を明記して歯磨きをしていただいたり、洗濯物をたたんで一緒にしまいに行ったりします。		